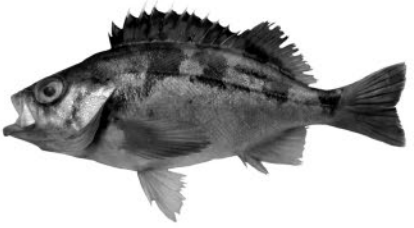
ウスメバル

日本海海域

Sebastes thompsoni

地方名
てんから（小泊）、
てり（岩崎）、つき



生態

①寿命：10年以上
②成熟：3歳（尾叉長18cm）以上
③産卵期：12月ごろ交尾し翌年4月～5月にかけて産仔。
④分布：日本海では石狩湾から対馬海峡まで、太平洋では函館から銚子まで。
⑤生態：胎生魚。体長4～5mmで産出。体長約16mmまで表層で浮遊生活。体長40～60mmまでを流れ藻に付随して生活。その後ごく沿岸で底生生活を送るようになり、成長と共に沖合に移動。3歳魚以上になると80～150mの岩礁域に生息。

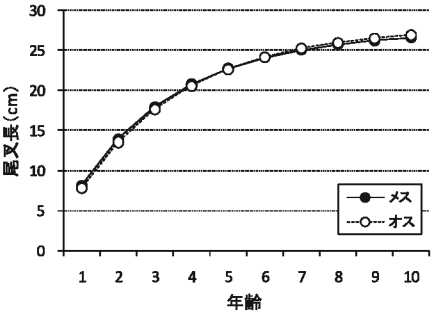


図　青森県日本海海域における
ウスメバルの成長

主な漁業

青森県日本海では6月～8月にさし網で、一本釣では周年漁獲され、盛漁期は5月～8月。主に水深80～150mで漁獲される。日本海以外の海域では一本釣、本県太平洋北部では5月～6月に底建網により漁獲される。3～4歳から漁獲される。

漁獲と資源の動向

青森県日本海での漁獲量は昭和50年代前半には600～1,000トンの漁獲があったが、その後減少した。平成9年に489トンにまで回復したが、再び減少し平成26年の漁獲量は129トンであった。

青森県日本海の年齢別漁獲尾数をみると、近年は平成17年産まれが卓越的に多く、平成18～20年産まれが少ない特徴がうかがえる。

＊日本海海域における年齢別漁獲尾数は漁期年(4月～翌年3月)で集計し、小泊漁協水揚分において銘柄別尾叉長組成とAge-length Keyを使用して年齢別漁獲尾数を推定し、日本海海域全漁協水揚分に引き延ばして推定した。なお、平成21年以前の値は平成22～26年の平均データを用いて推定した。また、平成26年は12月までのデータから、漁期年全体の値を推定した。

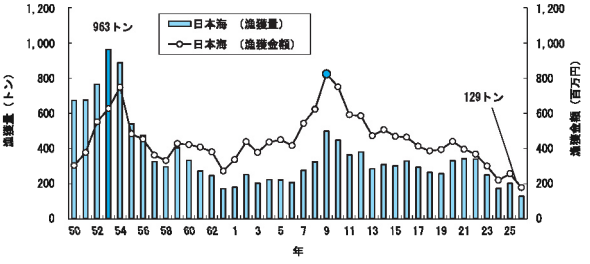


図　青森県日本海海域におけるウスメバルの
漁獲量及び漁獲金額の推移

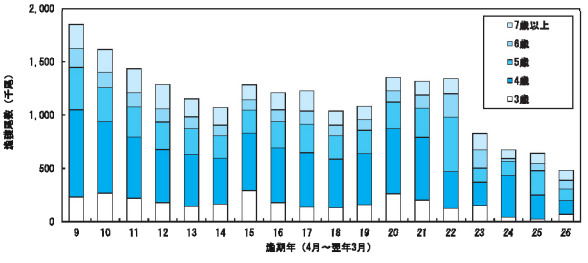


図　青森県日本海海域におけるウスメバルの
年齢別漁獲尾数の推移

漁獲の動向　減少
資源の水準　低位

資源を上手に利用するために

○資源管理計画（小泊漁協、下前漁協　平成5年3月）
○青森県ウスメバル資源回復計画（大間越漁協～岩屋漁協　平成19年3月）
・小型魚の荷受け制限、休漁日の設定（日本海のみ）を定めた。
☆上記のように小型魚漁獲を自粛する取り組みを継続することが必要。

トピックス

・陸奥湾で採集した稚魚を中間育成し標識放流及び種苗放流を行っている。平成23年以降では2,305尾の標識放流が行われ1尾の再捕があった。平成26年の標識放流尾数は267尾であり、種苗放流尾数は8,238尾であった。